

高島平新聞



発行所 株式会社高島平新聞社 〒175-0082 東京都板橋区高島平2-33-4-109
 編集・発行人 村中 義雄 電話 (03) 3936-1634
 ©(高島平新聞社) 2005 FAX 3936-1314
 月刊 毎月15日発行 定価1部150円 郵便振替口座 00150-3-138275
 ホームページ(毎月更新) E-mail
<http://www.takashimadaira.co.jp> shinbun@takashimadaira.co.jp

ホタル公開を前にピンチ

乱舞数例年の半分

飼育時に100万匹死なす

今年もゲンジボタルの夜間特別公開が、6月17日から19日まで、板橋区ホタル飼育施設で行われる。しかし同施設長の阿部宣男さんは「今夏が最大の危機」と話す。

発端は昨年度の緑化教育指導員人事。ホタル飼育施設で希望していなかった人事が、エコポリスセンターの意向で決定され、ひとりの指導員がやって来た。

ホタルの飼育は水槽への霧吹き一つでも、経験がものをいう世界。まして一番弱い孵化幼虫時代は、1日の中で水さえも動かしてはいけない睡眠時間がある。しかし件の指導員は独断でホタルの世話を始めた。

阿部さんが最初の異変に気づいたのは昨年の7月初旬。霧吹きが多いため、苔に産卵されている卵の一部にカビが発生していたの

だ。そして月が替わるごとに被害は拡大し、最終的にはゲンジボタルの卵40万個、幼虫60万匹以上が死んでしまった。因みに16年度の孵化数は約141万4000匹である。

この状況は、ホタル飼育施設管理日誌に逐一記録され、毎月エコポリスセンターに提出された。しかし決裁印が押してあるにもかかわらず、あまり善後策が取

られることがなかった上、日誌にはマジックで黒く塗りつぶされている箇所もあったという。

通常ではこの時期、1000から2000匹のゲンジボタルの乱舞が見られるが、今年は500匹が飛ん

でいるかどうかわからない状況。このため17日から始まる今年の夜間特別公開は、昨年の50から60割の数のホタルの乱舞? になりそうだという。

「けれども本当に大変なのはこれから」という阿部さんの説明によると、交尾のため昨年捕まえた成虫は約8400匹(雄雌比は3対1)。しかし今年には卵と孵化幼虫を合わせた100万匹以上のホタルの死により、4000匹? ほどしか捕まえることができない。しかも一見ハイケボタルと見間違えるほど小さな成虫も多い。

この傾向が遺伝的なものかどうかを調べるため、DNAや染色体などの専門家5人に調査を依頼した。答えは全て、人為的要因によるものと出た。小さな成虫は抵抗力も弱く、産卵さえ危ぶまれる状態だ。

「1匹でも多くのホタルを救いたい」。阿部さんを先頭に、飼育施設スタッフたちの懸命な努力が、今も続いている。